

令和3年度 第2回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会 議事録

開催日	令和4年1月27日（木）	
開催時間	9時～12時	
開催場所	佐賀市文化会館 イベントホール	
出席者	委員	富吉委員長、福成委員、重松委員、多良委員、 納富委員、松本委員、園田委員
	公益財団法人佐賀市文化振興財団	西川常務理事、宮崎事務局次長、河原管理課長、 福地事業課長、中野東与賀文化ホール課長
	事務局	百崎教育部長、木島教育副部長兼文化振興課長、小林副課長、 川上主査、塩田主任
議事	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長・副委員長選出 ・議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業改善計画（令和3年度～令和7年度）について 2) 自己評価（文化振興財団） 3) 質疑応答 4) 採点 5) 集計 6) 総合評価・意見交換 	
欠席委員	石丸委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○事務局

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

（はい）

【委員長・副委員長選出】

○事務局

委員長と副委員長について、公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会設置要綱の第4条第2項に、委員長は委員の互選により選出すると規定している。

委員長に就任いただく方の推薦等があるかお尋ねする。

○委員

富吉委員を推薦する。

○事務局

富吉委員を推薦ということでよろしいか。

○委員

(はい)

○事務局

副委員長は委員長の指名によるため、指名をお願いします。

○富吉委員長

石丸委員にお願いしたい。

○事務局

石丸委員が欠席で本人の意思確認ができないため、本日は委員の皆様の承認を得たうえで後日本人に意思確認し、次回の会議で改めて副委員長の就任とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

(はい)

◎ (1) 事業改善計画 (令和3年度～令和7年度) について

※財団から資料「事業改善計画 (令和3年度～令和7年度)」に沿って説明。

◎ (2) 自己評価 (文化振興財団)

○財団

1) 施設管理に関すること

・4月から9月の上半期では、文化会館は中止が105件、日程変更が7件、予定利用料金が約1,900万円、予定入場者数が約49,200人の減、東与賀文化ホールは、中止が6件、日程変更が2件、予定利用料金が約61万円の減、予定入場者数が約1,500人の減となった。

・文化会館の利用者数は前年度に比べて50,462人増の73,604人で目標400,000人の18.40%、稼働率は目標の72%に対して48.31%で、新型コロナウイルス感染症の影響で催物が中止、日程変更になったことによる。東与賀文化ホールの利用者数は前年度に比べて4,586人増の7,533人、目標36,000人に対して20.93%、稼働率は目標の38.80%に対し37.67%で、ほぼ目標には達している。

・保守点検や修繕等は確実に実施し安全確保に努めた。

・新型コロナウイルス感染症対策として、今年度もガイドラインに沿った運用と利用者への注意喚起を継続して行った。文化庁の補助金を活用して、赤外線カメラの増大、自動消毒機とCO₂濃度測定器などを新たに導入した。

・情報提供は、ホームページ、フェイスブック、新風、タウン誌により感染症対策ガイドラインの周知や中止・延期となったイベントの情報発信を行った。また、電波媒体による広報を行った。

2) 文化事業に関すること

・文化会館の文化事業は主催事業を4企画実施し入場者数は968人。ワークショップは3企画実施

し入場者数 182 人、アウトリーチは 2 企画実施し参加者は 336 人であった。アウトリーチ 2 カ所は台風のため中止した。

・東与賀文化ホールの文化事業は、主催事業 5 企画とワークショップ 1 企画を全て実施し、入場者数は主催事業が 810 人、ワークショップが 84 人であった。

・文化会館では音楽、舞踊などのジャンル以外で初めて書道のワークショップを行った。

・東与賀文化ホールではプロの打楽器奏者による海外の打楽器の演奏とワークショップ、また地元出身の人形劇、ピアニストを起用して公演を行った。

3) 財務に関すること

・利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症の影響で文化会館 32,807 千円、東与賀文化ホール 1,877 千円、それぞれ目標の 29.05%、40.80%である。

・日程の延期、変更または会場の見直し等により、入場者数、稼働率の減少を抑えた。

・オフィシャルパートナーズは昨年引き続き 11 社であった。

・文化庁の感染症予防対策事業補助金 125 万円が交付予定。また同庁の文化芸術活動支援事業補助金 1,490 万円を申請した。東与賀文化ホールでは(一財)地域創造の助成金を受けて 10 月に公演とアクティビティを実施予定。

・佐賀市が実施する文化芸術活動支援事業補助金について、利用者への案内を行った。

・前年度に引き続き臨時職員 1 名減を継続して、人件費の抑制に努めた。

・適切な空調管理などで、電気使用量の省エネルギーに努めた。

◎ (3) 質疑応答

○委員

新型コロナウイルス感染症の影響でオフィシャルパートナーズを辞退される可能性はあるか。

○財団

オフィシャルパートナーズ 11 社については新型コロナウイルス感染症の中でも引き続き了承いただいているが、来年度分については 2 月に説明する予定である。

○委員

動画配信はアーティストの人たちも今積極的に行っている。有料化で収入確保という話も聞くが、具体的に取組もうとすると対応できるのか。

○財団

佐賀に来られない方がどこかで公演したものを有料で文化会館が同時配信するには、大きなシステムの中に文化会館や文化振興財団も入らないといけないため、かなりの費用がかかるのと、著作権のハードルが高いと思っている。文化会館はホールに上がってというところなので、ホールと切離した形での動画配信についてはまだ具体的な形がつかめていない。

○委員

文化会館での公演をライブ配信する機材は既存のものでできるのか。新たに設備が必要なのか。

○財団

市民芸術祭を例にすると、オープニング JAZZ ステージは当初から記録用の DVD を作っていること

と、1階席後方や2階席から舞台が見えづらいのでステージ上にスクリーンを吊り、演者を映していたが、あくまでDVDの録画や現場でスクリーンに映すだけであるため、同時配信用となるとカメラの機能向上やオペレーターの増員、回線の確保や動画を送信するためのデバイス等の機材の持込みが必要になる。

○委員

説明を見ていると満足度がいかに高いかという評価が出来ないために数値目標だけになっている。きちんとした収入なり入場時の目標を立てるということは運営上必要だが、佐賀市文化振興財団は文化会館の管理運営財団だけではないと思う。音楽だけでなく絵画茶道、舞台芸術文学の団体の方は、コロナとは別に少子高齢化によって伝統的な文化、歴史的な部分に新しく入ってくる人たちがいないということ言われている。もう1点、最近新しいジャンルの文化芸術、映像などがどんどんふえてきていて、大学の学生もそちらを選ぶ人が多い。佐賀市民に芸術文化が何かとか、芸術文化の楽しさとかすばらしさとか、そういったものを地道に教えていく、そういう人たちを育てていくという施策はどこがするのか。

今想像以上に貧困家庭が多い。子どもの貧困問題。絵の具を買うこともできない、楽器を買うこともできない、コンサートのチケットを買うこともできない。その人たちに対して何か支援できることはないのか。民間企業の経済資本にならない部分だからこそ公的なところが手を差し伸べる。それが税金の使い道の一つではないか。

○文化振興課長

評価をするに当たっては、定量評価、定性評価があるが、見える化をしていく中の一つとしてはこういう定量的な評価が必要と考えている。一旦は設定した数値目標に対する定量的な評価というのはしつつも、定性的な評価については、委員からのコメントという形で出していただきながら、どういいう評価ができるかというのを考えていこうということでこれまで評価してきた。数値目標だけの評価だけでは不足であれば、ぜひともコメントという形で意見をいただきたい。施策展開の主体者は佐賀市ということになるが、佐賀市の行政だけの展開はなかなか難しい。そこは文化振興財団の力を借りながら行っていくことになる。今回はあくまでも文化振興財団の経営状態、あるいは施策展開の評価をするということなので、文化会館、東与賀文化ホールの施設運営を通じた、文化振興財団への第三者による評価ということでお考えいただきたい。

○委員

数値目標に気を取られると、市民の方が求める芸術家ではなくて、間違いなく売れる人だけ、人気があるアーティストだけ呼べばいいとなってしまうのが1番困る。市民からどういう芸術家、アーティストを招いてほしいというアンケートを公演のときにとるとかではなく、どういう形で市民の声を拾っているのか、そういったところも含めてお聞きしたかった。

○財団

これまでの第三者評価委員会の中でも数字だけでいいのかという指摘はあるが、説明責任が求められていてなかなか定性的なもの、よかった感動というのを評価することが出来ない。

オフィシャルパートナーズの財源を使ってアウトリーチをもっとやっていきたいと考えている。知的障がい者の施設学校にいったとき、出演者の方の事前のピアノ練習をずっと聞いていたり、児童養護施設に行ったときの出演者の方がコロナや水害があったときに支援をされたり、そういう機会がア

ウトリーチでたくさん出来るので、力を入れたいと思っている。

○委員

このコロナ禍の中で、オフィシャルパートナーズ企業 11 社を継続して維持しているのはすばらしいなと思う。アウトリーチがなんのためにされていて、どういう効果を出しているのかということが伝わっていくと、お金を出そうという企業がふえてくる。オフィシャルパートナーズというのが何をするといいのかなのが伝わっていくと、意義とか意味とか理解してもらえないのではないか。広く皆さんの価値感に触れるようなことができるとうい。

○委員

エピソードなどを 1 人称で書くと、どこかで火がついたり、文化会館のホームページに面白いのが載っているよと広まる可能性ある。もちろんその地道なことだから、わっと火がつくということはないかもしれないが、そういった試みというのは大切かもしれない。

◎ (4) 採点、(5) 集計、(6) 総合評価・意見交換

○委員

市民参加の支援ということで、ふるさと納税でというのは取り組んでいないのか。

○委員

文化会館の取り組んでいる事業も SDG s のいくつかが該当すると思う。パンフレットを作ったり PR したりするときに、SDG s の何番目につながっているというひも付けを、マーク等を活用して意識して発信してもらえたらいいと思う。

○委員

例えば経費節減で節電をしているというのも、SDG s につながっているというようなことが結構ある。

○委員

九州各県の同じような施設と連携をして、著名なアーティスト、有名なアーティストを海外から呼ぶときに、少しでもお金をそれぞれ分担して、安く呼ぶことができれば市民のためにもなるし、施設の運営にもなる。考え方の一つに、もう大きく、九州圏というくらい大きな視点で考えて、お互いに協力する、こういう施設同士で協力をする、そういうシステムもちょっと考えていただいたら、安い経費で、すごいアーティストを呼べるのではないかな。

○財団

公立文化施設協会というのがあり、いま話があった案件などは特に連絡を取りあうようにしており、東京にある全国の事務局からもいろんな配信がされている。それとはまた別に、九州沖縄ブロックでは類似都市といって、事業を展開しているところは意見交換をやっており、県の連絡協議会で年に 2 回会議を行っている。そういった取組等々の意見交換をしながら一緒にやっていくという形はあるため、もっと活用するようにしたい。

○委員

SAGA アリーナができると、いろんなアドバイスや連携が必要になる。九州エリアでするときにはスペースとしては SAGA アリーナを使って文化会館がやるということもあるかもしれない。

◎自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 R3年度上半期実績

◎判定の基準
【A】 高い成果を収めている **【B】** 概ね良好な成果を収めている **【C】** 向上の余地がある。 **【D】** 見直しが必要である **【E】** 抜本的な見直しが必要である

評価項目		評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1) 施設管理に関すること				
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P161723~25	B	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。 新型コロナウイルスについては、赤外線カメラの追加や自動消毒器、CO2測定器等を導入し利用者の安全に務めた。 文化会館では、外壁改修工事を10月まで実施。東与賀文化ホールでは、8・9月にホール空調設備更新工事とトイレ改修工事を実施。
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1~7		利用者数・稼働率ともに新型コロナウイルスの影響で目標に届かなかったが昨年と比べると改善が見られた。文化会館では催物の中止が281件から105件、東与賀文化ホールでは42件から6件と大幅に減っている。
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P21		ホームページ、フェイスブック、広報誌「新風」、タウン誌により感染症対策ガイドラインの周知を行った。中止や延期となったイベントの情報発信も行った。文化会館東与賀文化ホールとも電波媒体による広報を行い、特に東与賀文化ホールでは出演者をラジオに出演させるなど、費用をかけずに広報を行った。
2) 文化事業に関すること				
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P8~13	B	文化会館では、主催事業4本、アウトリーチ2本を実施した。また台風によりアウトリーチ2本を中止した。東与賀文化ホールでは予定した6本の公演全て実施した。また、10月末まで定員の50%に制限し感染症対策を万全にして行った。
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8~13		文化会館では新型コロナウイルス感染症により老健施設や介護施設でのアウトリーチができなかった。 東与賀文化ホールでは、唐津人形浄瑠璃保存会(アマチュア団体)による発表の機会を提供した。
⑥	将来の文化を担う子ども、青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P8~13		文化会館ではワークショップ3本、アウトリーチ3本を実施、東与賀文化ホールのワークショップで、世界的な打楽器奏者が講師となり、世界各地の打楽器の演奏と体験の機会をつくり、多様な文化に触れる機会を提供した。
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P8~13		文化会館ではワークショップで音楽や舞踊以外で初めて書道を実施し、佐賀北高書道部OBによる実演と指導をもらった。 東与賀文化ホールでは地元出身の人形劇、ピアニストを起用して公演を行った。
3) 財務に関すること				
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P16,19,20	B	オフィシャルパートナー企業は昨年と同じ11社。文化庁の感染症予防対策事業補助金125万円が交付予定。また同行の文化芸術活動支援事業補助金1480万円を申請中。東与賀文化ホールでは(一財)地域創造の助成金を受けて公共ホール音楽活性化事業(公演とアクティビティ)を実施予定。
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P18~15		新型コロナの影響で、文化事業収入・利用料金ともに目標に達していませんが、文化事業では国などの補助金獲得、利用料金では会場の延期や変更により中止にせず入場者数、稼働率の減少を抑えることに務めた。また、佐賀市の文化芸術活動支援事業業務(補助金1688万円見込)を行う事で施設利用者の確保に務めた。
⑩	経費の削減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P10~18		文化会館では、昨年度に引き続き臨時職員の1名減を継続して人件費の抑制に務めた。適切な空調管理により電気使用料の省エネに努めた。
自己評価(総合)	前回の委員会「R3年度の課題」		課題への対応状況	
	① コロナ収束の見通しが立たない中、施設の利用、芸術文化活動の促進策を新たな課題として欲しい。 ② 今後の公演にあたって、アンケートの結果もあり、若者向けコンサート、また男性の入場者が少ない。 ③ 他財団の助成金の活用は図れないか。 ④ 新しい運営の在り方を真剣に考える時、コロナ前には長らなことを念頭に、思い切った方策を打ち出せばと思います。 ⑤ 今後は、現地で公演とライブ配信の共存が定着していき考えられるので、これに対応を検討いただきたい。 ⑥ コロナ収束までの文化事業、芸術、舞台の価値創造(観ること、聴くことをオンラインなどほかのツールを使ってできないか。 ⑦ コロナ禍で日常生活を送ることで精一杯のなか、文化の持つエネルギーが相対的に低くなったように思う。新しい発想から生まれる予感もある。そんな方向から文化施設の果たすべき役割を見直してみよう。 ⑧ アウトリーチが「音楽」に偏るようになっていく。「にわか」やその他演劇なども幅が広がっていくとよいと感じる。		① 収容人員の制限や感染症対策を行い親子で楽しめる舞台を計画していたが、コロナにより実施が不可能となり課題への対応に至っていない。 ② 東与賀文化ホールでは、動画配信で100万再生回数のサクセス演奏者ユッコ・ミラーカルテットで若いファンの支持を集めることができた。 親子で鑑賞するファミリーミュージカルやステーションにより若い世代の来場を見込んでいたが、新型コロナウイルスにより実施出来なかったの で、次年度に実施出来るように調整を行っている。若い世代の来場者増や要望の多いジャンルの実施もふまえて対応していきたい。 ③ (一財)地域創造を引き続き活用し、三井住友海上文化財団、宝くじ文化事業を毎年申請している。 ④ 佐賀市民芸術祭において試験的に電子チケットの運用を実施した。次年度に施設予約やチケット購入システムについて更新を検討。出来る限り「遠隔」や「非接触」といったコロナ後の運用に対応出来る手法運用を検討していきたい。 ⑤⑥⑦ 佐賀市民芸術祭で全ての公演で同時配信を実施する。無料公演は出演者の了承を得れば配信可能だが、有料公演の同時配信は権利所在 や出演料により判断する必要がある。マスク着用、大声禁止、手指消毒と検温や換気の実施など安全な施設利用対策の徹底を引き続き行 い、文化芸術を鑑賞する機会を提供していきたい。 ⑧ アウトリーチやワークショップ等の体験型事業について、書道や大道芸のワークショップを行い、にわかのアウトリーチを計画している。 今後もアウトリーチの実施先も考慮しながら「音楽」以外のジャンルを検討していきたい。	
	R3年度上半期に高い実績を収めた事項		R3年度下半期に向けた課題	
	・コロナ禍により、施設のキャンセルも多く、文化事業の広報も出来にくい状況であった。動画の配信や電子チケットの運用などコロナに対応する以上の実績は収められてない。		・2024国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀文化ホールの文化事業の実施数の目標達成。 ・文化事業収入の増加。 ・動画配信での公演実施。	

《 集計表 》 令和3年度上半期実績評価 採点の結果 委員コメント

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		210	158	75.2	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	70	58	82.9	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	70	52	74.3	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	70	48	68.6	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・車イス動線、視覚障がい等の方の利便性を高めてほしい。 ・イベント主催者の声があれば聞きたい。イベントをする側へのPRはどのようにされているか。 ・幅広いジャンルの活動が可能なることをアピールしてほしい。 ・コロナ禍でのFBの利活用など、できることをやっていると思う。 ・ターゲット層によって広報の方法にメリハリをつけるともっと効果的だと思う。 				
2) 文化事業に関すること		280	208	74.3	B
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	70	50	71.4	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	70	50	71.4	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	70	58	82.9	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	70	50	71.4	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックは堅苦しい等と感じている市民などへ新しい楽しみ方を提供するなどの工夫も欲しい。 ・アウトリーチをもっと増やしてよいと思う。 ・エントランスやロビー等を展示スペースとして活用するなどの工夫はできないか。 ・県外で活躍する佐賀出身のアーティストの情報などはどこまで把握されているか。 				
3) 財務に関すること		210	156	74.3	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	70	56	80.0	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	70	46	65.7	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	70	54	77.1	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の積極的な活用にも努力されている。 ・オフィシャルパートナーをもっとPRしてよいのではと思う。 ・イベントする側へのPR効果が不明。 ・会場の延期や変更により中止しない方向にできたことはよかったと考える。 ・市民が自ら協力するシステムを作れないか。 ・コロナの影響で不要となった経費の使途を知りたい。 				
◆総合		700	522	74.6	B
◆総合評価					
高い実績を収めた事項		令和3年度下半期の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で努力・工夫、新たなチャレンジを実施している。(ex. 動画配信、非接触) ・オフィシャルパートナーズ11社とのつながりはコロナ禍の中、頑張っていると感じている。 ・子どもたちへの支援事業を評価する。 ・コロナ禍の厳しい中で、管理、財務面の取り組みもしっかりされている。 ・助成金を積極的に活用され、運営にも努力されている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントを開催できないのであれば、実施できることの回数を増やしたり、オフィシャルパートナーズの拡大などに取り組んでいくのはどうか。 ・コロナ禍がまだまだ続く中、遠方から著名人を呼ぶものだけでなく、地元の中でできるイベントを小さくてもたくさん実施することが大切だと思う。 ・音楽に偏りがちなアウトリーチの多様化を進めてほしい。 ・アーティストは一度活動が停止すると、再び始めようとする意欲が湧かないとの声も多い。こうした方々へのアプローチ等、活動の芽をつままない工夫もお願いしたい。 ・①芸術文化の継承、人材育成、出番づくり、②社会の課題(貧困、福祉の芸術に触れる機会の少ない人たち)、③企業、市民の支援、三者の連携による取組みができればいいと思う。 ・SDGsとのひも付けによるPRの発信にも積極的に取り組んでほしい。 ・コロナの影響で活動ができないときに何か普段は行えないようなことを実施し、報告していただけたら良い。 ・集客効果の高いイベントもバランスをとりながら積極的に行っていただきたい。 ・動画配信での公演実施はコロナ対策として期待したい。 			